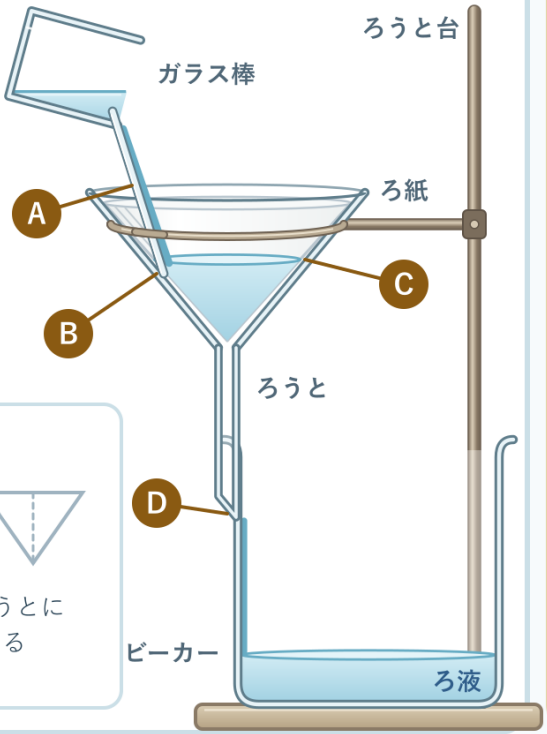
ろ過のしかた：ろうととガラス棒の使い方

ろ過で、ろうとの先やガラス棒をどう使うと、液がはねたりこぼれたりしないのだろう

ろ過の装置（正面から見た模式）



ろ紙のつけ方



4つ折りにして開き、ろうとに入れ、水でぬらしてつける

A〜D の操作と、そうする理由

A　ガラス棒に伝わらせて、液を少しずつ注ぐ。

なぜ？ 液がはねたり、ろうとの外にこぼれたりしない。

B　ガラス棒の先は、ろ紙が重なっている所に軽く当てる。

なぜ？ ろ紙がやぶれにくい。

C　液は、ろ紙のふちより下までにする。

なぜ？ ろ紙の外を通って、こされずに流れ落ちない。

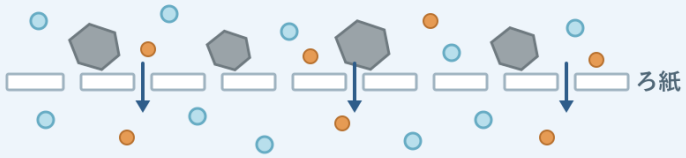
D　ろうとのあしのとがった先を、ビーカーのかべにつける。

なぜ？ ろ液がかべを伝わって流れ、はねない。

気をつけること：ろうとはろうと台にしっかり固定する。

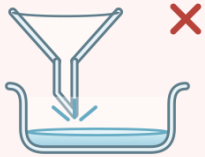
ガラス器具は割れやすいので倒さない。液がはねるので保護眼鏡をかける。

粒のモデルで見ると（模式）



- **溶けていない固体** → 穴より大きく残る
- **水・溶けている物** → 穴を通りぬける

よくない例



×　あしがかべから離れている → 液がはねる



×　ガラス棒を使わず一度に注ぐ → こぼれる

※ 模式図。粒の大きさやろ紙の穴は誇張した。器具の形は製品で違う。完全な操作手順ではない。授業では先生の指示で確かめる。